CUBIC ONE

C LIENT ORIENTED

U NITED TEAM SPIRIT

B USINESS VALUE

I NNOVATION & TRANSFORMATION

C ONNECT !

協力会社:
シービーアールイー株式会社
富士警備保障株式会社
(株)アイキューブソリューションズ
(有)エスタシオン

～人が環境を変え、環境が人を変える～

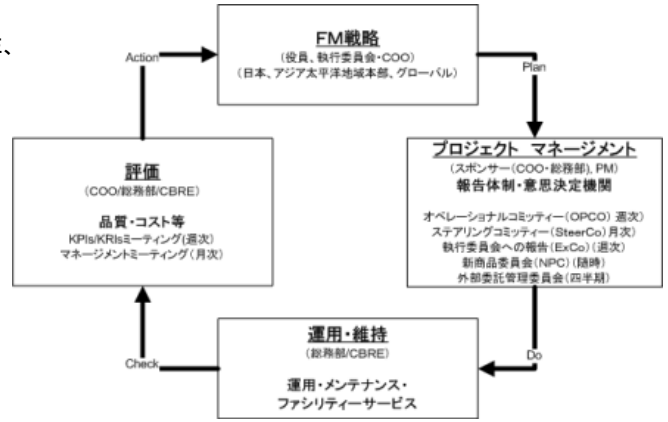
C lient oriented
U nited team spirit
B usiness value
I nnovation & Transformation
C onnect

■ 実施時期並びに背景～結果･効果

- 2011年の東日本大震災を受け、金融機関はより実効性のあるBCP対策が求められる。
- ソシエテジェネラルグループとして、市場部門の拡大に伴い、より顧客ビジネスを推進するために、日本においてプレゼンスを高めることが求められる。
- 今回のオフィス移転のプロジェクトを推進するに当たり、**Cubic ONE**というコンセプトを社内で明確化し、実現できるオフィス環境の構築を目標とする。
  尚、ONEに関しては、縦割りのサイロ的な組織から脱却しより一体と組織を目指す標語としてのONEと、新住所が千代田区丸の内1-1-1であることから、1の三乗（英語でCubic, Cubed）と掛け合わせてCubic ONEとしている。
  Client Oriented（お客様目線で）
  United Team Spirit（チーム一丸となって）
  Business Value（付加価値のあるビジネスを）
  Innovation & Transformation（より革新的且つ変革的に推し進めながら）
  Connect！（物理的、精神的に）繋がりを
- ２０１５年4月に千代田区丸の内1-1-1パレスビル（パレスホテル隣）に移転、当初の目的を以下のように達成する。
  1. 自家発電設備やUPS装置の導入により、強固なBCP環境を構築
  2. 柱、壁など物理的に遮るものを極力避け、ガラスのパーティションを導入することによって、開放的なオフィス空間、社員間のコミュニケーションを高める
  3. 皇居を見渡せる一番眺めの良い場所をお客様向けのセミナー等を開催できるファシリティー（最大１１０名収容可能なセミナールーム）、また従業員が使えるカフェラウンジ持つことにより対外・対内的な存在感を高める
  4. 共有スペース（セミナールーム、ラウンジ、会議室等）の対内･外の最大限有効活用により、セミナー後のレセプション、社内タウンホール、イベント、同好会等、社内活性化
  5. デジタル化推進の加速により、全ての会議室に最先端IT設備を装備、全社員にタブレット端末提供、各オフィスエリアにデジタルサイネージ、同時通訳システム、会議室予約システム等
  6. 環境を考慮したオフィス･グローバル組織全体で推進しているCO2量の削減のための方策、徹底した紙削減環境を実施。ごみ箱の集中管理化、オフィスキャビネット70％撤去、オンデマンド複合機導入等
  7. やる気を起こさせる、プライドを持てるオフィス、環境・スタッフに優しいオフィスということで、電動昇降付デスク導入、シャワールーム設備、働くお母さんに対応できるファーストエイドルームの設置、クライアントエリアへの給茶、スタッフ用のカフェ（朝食から夕方まで）運営
  8. 上記を実現しうるコーポレートサービス部の各ファンクションの戦略的アウトソーシング化： ファシリティマネジメント及び業務をCBRE、オフィス計画をアイキューブソリューションズ、セキュリティ及びメールルームを富士警備保障、カフェをエスタシオンに業務委託
- 経営の観点からは、来客数（180%）、セミナー数（150%）の増加に加え、多くの社員が新オフィスに対して好印象を持つ。
- 外部委託により、受付をはじめ、セキュリティ、各種サービスが格段に向上したことに満足度が高まっている。
- 電動昇降機能付きデスクが導入されたことにより、社員の健康にも配慮した取組みが、社員のモティベーションをより一層上げ、マーケット環境にも支えられ、移転後、よい収益を享受できている。

■ FM戦略･計画～定着

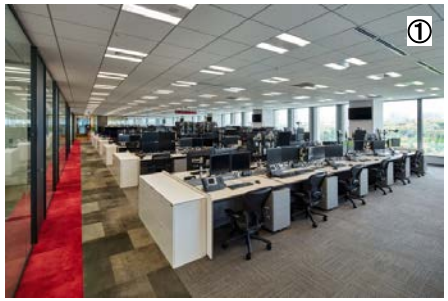
- グローバル、アジア太平洋地域本部、日本の経営陣（社長、役員、執行委員会メンバー）によって定められた経営戦略に基づき、FM戦略に関しては、日本のCOO をスポンサーとしてコーポレートサービス部長と外部委託しているCBRE及びその他協力会社とが共同で計画
- 規模に応じてプロジェクトを立ち上げ、COOがスポンサーとなり、プロジェクトを推進。プロジェクト管理態勢は、週次でオペレーショナルコミティー、意思決定の場として月次のステアリングコミティーが通常設けられる。
- 運用・維持のサイクルに入ると、コーポレートサービス部が責任部署となり、業務委託業者運用・維持を行う。
- 評価に関しては、定期的に予め合意されたKPI (Key Performance Indicators) / KRI (Key Risk Indicators)をCOOも含め協力会社と改善点等を話し合う。



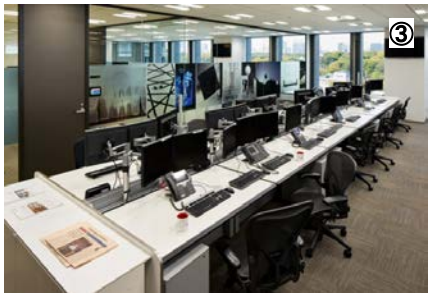
実際のオフィス内の模様

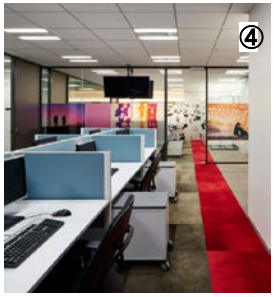
Client oriented
United team spirit
Business value
Innovation & Transformation
Connect

壁や柱のない開放的なトレーディングフロアー（左）。管理部門（右）は兼職部門と呼ばれるウォールが必要のない部門のため、部署間に壁は存在しません。また個室は内側に設け、窓側まで座席が置かれる（①、②）
ファイアーウォール（エンティティ間）、チャイニーズウォール（プライマリー・セカンダリー）には“壁”が必要だが、アートグラフィックを利用することで“壁”を取り入れ、更に採光を確保し、また芸術に触れる機会を提供（③、④）
写真⑤は、年内に統合することが決まっているため、金魚鉢と呼ばれる会議室を間に設けることで、情報の共有を遮断している。統合後は、アクセス権限を変更することで、壁を除去する工事を行うことなく1つのエンティティとして利用可能。


①

②


③


④

⑤

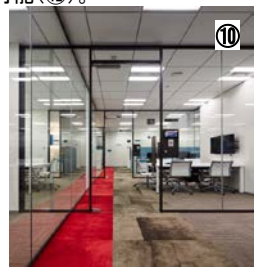
最大で70名着席（110名の椅子のみ）のセミナールーム（⑥）。可動式のパーティションにより、三分割できるスペースにし、有効活用される（⑦）。 持ち運び式同時通訳機器の導入で、3ヶ国語（日･仏･英）に対応する。ボードルームをはじめ全てのミーティングルームには最新のビデオカンファレンスファシリティー、AppleTVやMiracastといったミラーリング機能が付いており、全社員に配布されたタブレットを通じて書類などを共有することが可能（⑧～⑪）。 ミーティングルームの入り口には予約システムが設置されており、MS Outlookと連動。空いている（緑色に点灯）場合は端末から直接予約が可能（⑫）。

⑥

⑦

⑧

⑨


⑩

⑪

⑫

シャワールームは2基完備。 ゴミ箱集中管理により、ゴミの量が大幅に削減（年間削減見込額33.7トン）（⑬）。コーヒーマシーン、機密書類廃棄箱、ウォーターサーバー、冷蔵庫等一箇所に集め、メンテナンスの効率化（⑭）。
電動上下昇降機能付デスクはトレーディングデスク以外の全てのエリア（含む個室）に計230台導入され、エルゴノミクス（ergonomics）人間工学に則った新しい働き方をもたらす（⑮）。
セミナールームとラウンジ及びカフェへを繋げることにより、クライアントエリアの導線を生かして、ブレックファーストミーティングから夕方のレセプション･カクテルパーティまで対応。ラウンジは社内で一番よい場所に位置する。
毎朝焼き立てのクロワッサンと一杯づつ淹れるエスプレッソが大好評。カフェ営業は7：30から18：00（⑯から⑲）。

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲